

# Tiara

看護情報誌ティアラ 2020年2月

Nursing 最前線 ● 岩手医科大学附属病院「前編」

円滑な開院を実現した  
新病院移転プロジェクト  
看護師たちが取り組んだ  
体制づくりは「人材教育」

SCOPE 注目の話題 ● 出前でレクチャー

堺市の3病院が連携して実現  
スペシャルリストが出張講義を行う  
「出前でレクチャー」

紹介します！ わが看護協会 ● 東京都看護協会  
看護職の明日を支える新会館を拠点に  
時代の変化を見据え戦略的な取り組みを展開



# 円滑な開院を実現した 新病院移転プロジェクト 看護師たちが取り組んだ 体制づくりは「人材教育」

## 岩手医科大学附属病院 [前編]

岩手医科大学附属病院は、岩手県唯一の大学病院として高度医療を中心に県内の医療ニーズに应运ってきました。その歴史は120年余と古く、時代の求めにより体制の拡充を行ってきましたが、施設の老朽化は進行。2002年に新たな場所への総合移転計画を立ち上げ、17年を経た2019年9月21日に移転を実現させました。病床数1000を有する大規模病院の大移動の様子を2号にわたってご紹介します。



1

### 移転に向けた本格的な準備が 2016年からスタート

岩手医科大学附属病院の新病院は、2017年3月末～2019年6月という2年3カ月の期間を費やして建設されました。場所はかつての病院があった盛岡市に隣接する矢巾町。旧病院からは11km、車でおおよそ30分の距離です。旧病院は「附属内丸メディカルセンター」として、引き続き地域の医療を支えています。

新病院の建設計画と並行し、移転に向けてのプロジェクト実行委員会が本格的に始動したのは2016年10月。2018年に看護部長となり看護部を率いる役割を担った佐藤悦子さんは身の引き締まる思いがしたといい、「それまでも副看護部長として携わってきた

移転プロジェクトがいよいよ本格化し、あらためて責任の重さを自覚してスイッチが入りました」と話します。看護部としては、すでに設置されていた移転構想委員会により、新病院での体制づくりと移転計画の立案をスタートさせました。

### 移転準備と並行して行った 新体制づくりに向けての人材教育

副看護部長の千葉香さん、同出口育美さん、同安保弘子さんらの協力を得て、佐藤さんがまず着手したのは「人材教育」でした。新病院では、部署の広さや配置の見直しがなされており、それに伴い患者さんの収容や導線も変化しています。| CU・HCU・

2



3



1. 新病院でも変わらずにベストな看護を提供できる裏には人材教育がある（写真は緩和ケア病棟）
2. (写真左から) 高橋弘江岩手県高度救命救急センター師長、安保弘子副看護部長、千葉香副看護部長、出口育美副看護部長
3. 佐藤悦子看護部長



4. 移転プロジェクトが進められている時期の病院建設風景。北西方向にみえるのは岩手山

5. 新病院になり広く機能的になったICU・PICU病棟

6. 新病院にはドクターヘリ基地ヘリポート（2012年3月落成）も。救急病棟で働く三上奈津子さんは要請時にはフライトナースとして出動する



5



6

SCUなどの集中治療部門、手術室、NICUを含む周産期部門は広くなり、隣接した診療科との間は治療に応じて患者（患児）さんがスムーズに行き来できる構造になっていました。

「そのため、看護職員には今まで以上に診療科同士の連携が求められ、相手の看護も理解しておかなければなりません。また一方で、規模の拡大によって人員の補充が予定される病棟もありました。人材の育成は急務でした」（千葉さん）

看護部では、各病棟の看護師長と話し合いを重ね、相互連携のための教育を行うとともに、要件に合った人員構成にするため人事異動も実施。高橋弘江さんが師長を務める岩手県高度救命救急センターでは、新たに30名の看護職員が加わることになったといいます。高橋さんは「新スタッフへの教育を担う従来スタッフに対し、指導者としての教育を行いました。さらに、新スタッフには救急で重要となる視点や安全な看護を理解してもらうための情報提供を行いました」と話し、教育によって移転後すぐに診療・治療できる体制を整えることが重要だとしました。

「移転に際しては、新たなスタッフを受け入れるだけでなく、異動も必要でした。病棟師長はとても大変だったと思います」と出口さん。師長は自分の病棟の人員構成を考え、病棟スタッフ一人ひとりと面談を行いました。そして、本人の希望も踏まえて異動するスタッフを選択、他病棟や附属内丸メディカルセンターへの異動に納得してもらったうえで、要件に合った病棟づくりをしていきました。

「スタッフ個々のモチベーションを保ったまま、新たな体制をつくらなければなりません。そこが一番苦労した点でしょう」（出口さん）

## 移転がリセットの機会に 変化は成長のチャンスになる

新病院の建設にあたっては、設計段階から、特に医療ガスや水回りなど療養環境にかかわる部分について、看護部の意見が重視されてきました。新たな施設は、患者さんにとっての快適・安全とスタッフの働きやすさを担保したものとなっています。

「施設の面からも、働く職員にとっても、新病院の建設・移転はリセットの機会に。新しい環境・職場・土地を受け入れたとき、私たちも成長できたような気がします。大切なことは、変化を嫌がらずチャンスだと捉えること。今にこだわりすぎると成長できなくなってしまうように思います」（佐藤さん）

このように、同院の看護職員にとって、移転プロジェクトは医療・看護の提供体制を整えるための人材教育から始まりました。



### DATA

#### 岩手医科大学附属病院

岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1

<https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/yahaba/>

開設 ●1936年 病床数 ●1000床

職員数 ●2200名

うち看護職員1203名(2019年現在)

看護配置 ●一般病棟7：1

特定機能病院／岩手県高度救命救急センター  
／基幹災害拠点病院／がん診療連携拠点病院  
／肝疾患診療連携拠点病院／総合周産期母子医療センター

## 堺市の3病院が連携して実現 スペシャリストが 出張講義を行う 「出前でレクチャー」



地域に出かけて講義を行う「出前でレクチャー」

大阪府堺市にある堺市立総合医療センターと大阪労災病院、馬場記念病院が協力し「出前でレクチャー」という取り組みを行っています。これは、3病院に所属する専門看護師や認定看護師がもつ知識や技術を、地域全体で活用することを目的とするもの。地域に貢献したいそんな思いから始まった取り組みの様子をご紹介します。

### 専門看護師・認定看護師を活用し 地域全体の医療・看護の質の向上を

その名のとおり講師が地域に出向き講義を行う「出前でレクチャー（以下、レクチャー）」。地域の病院や訪問看護ステーション、介護施設などからの依頼を受け、レクチャーに参画する3病院に所属する専門看護師\*（CNS）や認定看護師\*（CN）が講師となります。この取り組みは2017年4月から始まったもので、その発端は市内の看護部長会での話し合いでした。

堺市は市域がそのまま二次医療圏であるため、地域での医療施設や介護施設間のつながりが、市の医療を支える基盤になることはいうまでもありません。全国的傾向に違わず堺市でも高齢化が進んでいますが、患者さんは入院や退院を繰り返しながらも、住み慣れた地域で過ごすことを望んでいます。これを受け、構築が進められている地域包括ケア体制には、市全体として市民の健康な生活を考え、市域の医療施設と介護施設全体で患者さんや利用者さんと語りあえるつながりが必要とされています。いま私たちにできることは何か——その思いを強めた堺市立総合医療センター副院長・看護局長の谷口孝江さんが自院の専門看護師にアイデアを求め、この取り組みが生まれました。

「スムーズな医療・看護の継続のためには、各病院・施設がより力をつけることが重要。CNSやCNのスキルを地域全体で活用する方法を考えました」と話すのは、堺市立総合医療センター慢性疾患看護専門看護師の田中順也さん。企画段階から稼働した現在もレク

- チャーに中心的一かかわっており、加えて大阪労災病院母性看護専門看護師の三宅知里さん、馬場記念病院感染管理認定看護師の森田恵美さんが各院の担当として取り組みを支えています。

### ベッドサイドケアから倫理まで 依頼内容によって講師を選定

- 講師として地域に派遣されるCNS・CNは3病院で合計66名に上ります。

- 「基本的に月ごとに担当病院を決めており、依頼の内容に合わせてCNSやCNを選定しています。担当病院に該当する領域の人がいないときは、残りの2病院から派遣します」（田中さん）

- 受付窓口は堺市立総合医療センター看護局で、「出前でレクチャー受付方法」の専用用紙により依頼を受け付けます。希望領域や研修対象者などの詳細を確認したうえで、担当病院の教育担当者へ連絡。教育担当者が調整して研修を担当するCNS・CNを決めます。そしてその後は担当するCNS・CNが依頼先と細かい打ち合わせを行い、研修の内容を決めていく流れになっています。

- 多くみられる研修テーマは「意思決定支援」「褥瘡・スキンケア」「精神疾患患者への支援」「がん看護」など。「乳がん患者のための補正下着について」といったより細かいテーマでの依頼もあります。

- 「感染管理や呼吸器関連など日常的に行われるケアについての依頼では、現場で今知りたいこと、悩

\*日本看護協会による認定資格



紹介します! / 全国都道府県看護協会をぐるっと巡る

# わが看護協会

東京都看護協会

vol.6



東京都看護協会  
会長  
山元恵子さん

自ら選んで看護師になったので  
すから、今が一番楽しいと思え  
るようになってほしいですね。  
そのためには、自分の力を信じ  
ることが大切。できないことを  
悩むのではなく、どうすればで  
きるようになるかを考えて。

## 看護職の明日を支える新会館を拠点に 時代の変化を見据え戦略的な取り組みを展開

### 看護職の交流と成長の場所として 新会館がオープン

東京都看護協会は、2019年4月に新たな拠点となる新会館を新宿区西新宿にオープンさせました。人々に癒しを与える「こもれび」を基本イメージに建物をデザインし、会員はじめ多くの人足を運びたくなる会館をつくりました。地下1階、地上6階の7フロアで構成される館内には、約400名収容可能な大研修室と4つの中研修室があり、本会主催の総会や研修、そのほかの学会や会議に対応できる設備を備えています。館内は、1本の木の成長をイメージして設けた2~4階にわたる吹き抜けが中心になっており、開かれた空間の中で自由に過ごせる場所を設けました。図書室は、壁のないオープンな空間の中でゆったりと閲覧できるスペースを作りました。司書を増員して、月~金曜、第2・4土曜に利用できるようにしています。そのほか、同じフロアには本格的なキッチン設備もあり、将来的にはラウンジを含めて子ども食堂や栄養指導など地域に貢献できる使い方も考えています。



会長の山元恵子さん

のほか、東京都助産師会、東京都訪問看護ステーション協会も入居しています。今後は「看護の知の拠点」として、ネットワークをさらに強く太くしていくことを目指します。



大会議室はスペースを区切って2つの研修室としても利用できる（写真上）。吹き抜けの周囲にはくつろげるスペースが（写真右）



交通の便がよい新宿という立地もあり、今まで以上に多くの会員が会館に足を運んでくださるようになりました。人々が集い交流して、「感じる力」「共感する力」「見る力」を磨き、時には切磋琢磨し、時には癒されて、明日のための力をチャージしてそれぞれのもとに戻っていく——そんな自由で活力のある会館にすることが建設に際しての目標でした。

### 社会の国際化と地域包括ケアを 視野に入れた取り組みを展開

また本会では、新組織として国際交流係を立ち上げました。2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、外国人観光客も増え、さまざまな国の人の姿を目にするようになりました。係では、そういった外国人の医療ニーズに応えるため、英語、中国語、韓国語の外国語会話研修を実施しています。医療・看護は有望な輸出資源でもあり

ます。看護職が今後海外で活躍する際必須スキルとなる外国語を研修科目に取り入れ、多方面への出張研修も開始しました。

一方で、地域にも目を向け地域包括ケア委員会もスタートさせています。都内23区および多摩11地区、島しょに1名ずつの計35名をメンバーとし、それぞれの地域の実情に即した取り組みを進めるための活動を始めました。また東京都からの委託事業として、看護職（病院・訪問・診療所）に加え社会福祉士や介護支援専門員など地域の介護関係者も対象とした入院時連携強化研修も実施しています。地域包括ケアシステムにおける切れ目のない医療・看護・介護の連携は、本会でも中心的な取り組みのひとつとしています。

これからの看護職は、地域での多職種連携におけるリーダーとしての役割、そして日本の優れた看護力を世界に発信する役割と、幅広い活躍が求められます。看護職の皆さんが自信をもって自分の力を発揮できるよう、さまざまな職能団体や企業とコラボレーションしながら、日本一の看護協会を目指していきます。どうぞご期待ください。

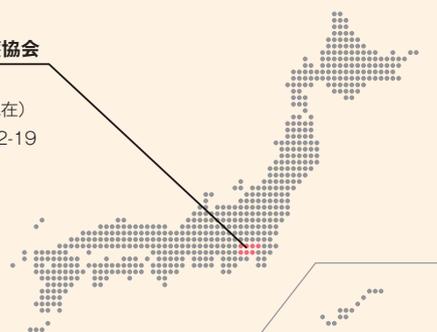


明るく開放的な図書室。リラックスしながら読書できるシートや資料を検索できるパソコンも設置（写真上）。各階のテラスからは新宿の街並みが見渡せる。東京都庁の近さがわかる（写真左）

**公益社団法人 東京都看護協会**

会員数 / 49133名  
(2019年3月31日現在)

住所 / 東京都新宿区西新宿4-2-19



Let's  
**看護  
みかき**

看護の学びに  
役立つ情報を紹介します

vol.9



身体疾患の治療のために入院してきた認知症の人へのケアに悩んだことはありませんか。現在、一般病棟のナースにも、認知症の人に対する適切なケアに加え、地域で健康的な生活が送れるような退院支援が求められています。本書では、認知

症の人への退院支援についてQ&Aでわかりやすく解説。臨床で戸惑いがちなことに答えてくれる実践書です。

**認知症plus退院支援  
一般病棟ナースのためのQ&A**

深堀浩樹・酒井郁子・戸村ひかり・山川みやえ 編  
日本看護協会出版会  
2600円（税別）

ナースが地域の自慢のおみやげをご紹介します！

\自慢の/  
**おみやげ  
Collection**

今回の推薦者



岩手医科大学附属病院  
副看護部長  
出口育美 さん

vol.9 | 福田パンのコッペパンサンド  
岩手県



盛岡市民のソウルフード「福田パン」。ソフトフランスという大きめのコッペパンにあんやクリーム、惣菜がはさまれています。オススメはあんバター。盛岡駅構内でも買えますが売り切れ注意。1個 139円～（税込）  
福田パン 長田町本店 019-622-5896

どうしたらいい?

# お助け! 接遇 Q&A



看護の中で出会いがちな  
接遇にかかわる困りごとに答えます

解答

株式会社 C-plan 代表取締役  
小佐野美智子さん

vol.8

## Q.

訴えの多い患者さんを優先しがちで、物わかりがよい患者さんとあまりかわりかかわりません。効果的なかかわり方はありますか。

## A.

患者さんにはさまざまな行動特性があります。その人の思考や行動傾向を把握して、効果的なかかわり方を考えていきましょう。

患者さんにはさまざまな行動特性の人がいます。自分よりも相手や周りを優先し、自分のことは後回しで我慢しがちな人は、たとえ声をかけられても自分の意図と反対の言動をしてしまう傾向にあります。「大丈夫ですか?」と問いかけてしまうと「大丈夫です」と笑顔で返されることが多いので、その人の病状・状況をこれまでの経験則から推察し、抱えそうな問題を予測して「聴く」ことが大切です。「何かお変わりありませんか?」ではなく、「昨晚から今朝にかけての痛みの強さはいかがですか?」など具体的な状況について質問を投げかけたり、率直に相手が状況を答え

やすい状態をつくるなどの配慮が必要です。

また、そのような患者さんに何か説明する場合は、相手をよく観察し、伝えたときのリアクションに応じて、①理解度、②納得度、③満足度を把握するよう心がけましょう。特に表情や目線は重要です。さらに、患者さんが胸の内を言い出しやすい環境を作ることも必要です。

悩みや不明点などを声に出せない患者さんの思いを引き出すことは、その人が安心して治療を受けることにつながり、クレーム予防にも結び付きます。行動特性を意識し、患者さんの本音をより一層理解するようにしましょう。

医療研修施設

## ニプロ IMEPに 行ってきました!!

新人ナース

ベテランナース

せっ先輩~!!  
エラー音が  
止まりません!!

この部屋では、  
患者さんの状態を細かく設定して、  
実際の急変時にどう動けばよいのかを  
シミュレーションできるのよ。  
現場に近い状況で研修できて、  
新人ナースにもってこいね。

在宅用の  
トレーニングルームも  
あるんですね。

ここでは主に  
薬剤師さんが研修を  
するのよ。調剤をするための  
クリーンベンチもあるのよ。

こんな感じ  
ですかね?

コラ!  
遊ばないの!

一軒家のようになっていて、  
ポータブルトイレや、  
隣にはバス、キッチンも  
揃っているのよ。  
実際の状況に近い形で  
研修できるの!

### 施設 DATA

「医療研修施設 ニプロIMEP」

〒525-0055 滋賀県草津市野路町3023番地  
3階建て 研修室数17室

各研修室には最新の同時録画装置を設けており、館内での  
ライブ配信学習、録画振り返り学習はもとより、WEB回線を用  
いることで世界中に配信も可能

医療関係者向け講習会のお知らせは下記よりご確認ください  
(URL)  
[http://med.nipro.co.jp/imep\\_society](http://med.nipro.co.jp/imep_society)



NIPRO